

特定行為区分	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	時間	32
特定行為名	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与		
	(B) 抗精神病薬の臨時的投与		
	(C) 抗不安薬の臨時的投与		
学ぶべき事項	(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	1. 精神・神経系の局所解剖	
		2. 神経学的主要症候	
		3. 精神医学的主要症候	
		4. 主要な神経疾患と病態生理	
		5. 主要な精神疾患と病態生理	
		6. 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント	
		7. 主要な精神疾患の面接所見	
		8. 神経学的検査	
		9. 心理・精神機能検査	
		10. 精神・神経系の臨床薬理（副作用、耐性と依存性を含む）	
	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	1. けいれんの原因・病態生理	
		2. けいれんの症状・診断	
3. 抗けいれん剤の種類と臨床薬理			
4. 各種抗けいれん剤の適応と使用方法			
5. 各種抗けいれん剤の副作用			
6. 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）			
7. 抗けいれん剤の投与のリスク（有害事象とその対策等）			
(B) 抗精神病薬の臨時的投与	1. 統合失調症の原因・病態生理		
	2. 統合失調症の症状・診断		
	3. 抗精神病薬の種類と臨床薬理		
	4. 各種抗精神病薬の適応と使用方法		
	5. 各種抗精神病薬の副作用		
	6. 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）		
	7. 抗精神病薬の投与のリスク（有害事象とその対策等）		
(C) 抗不安薬の臨時的投与	1. 不安障害の原因・病態生理		
	2. 不安障害の症状・診断		
	3. 抗不安薬の種類と臨床薬理		
	4. 各種抗不安薬の適応と使用方法		
	5. 各種抗不安薬の副作用		
	6. 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）		
	7. 抗不安薬の投与のリスク（有害事象とその対策等）		
研修概要	(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	精神及び神経症状のある患者に対し、適切に状態を評価し、安全に薬剤を投与投与できる基本的な知識を得る。	
	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（発熱の程度、頭痛や嘔吐の有無、発作の様子等）及び既往の有無等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤を投与する。	
	(B) 抗精神病薬の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（興奮状態の程度や継続時間、せん妄の有無等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬を投与する。	
	(C) 抗不安薬の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（不安の程度や継続時間等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬を投与する。	
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤の臨時的投与ができるようになる。		
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬の臨時的投与が行えるようになる。		
	3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬の臨時的投与が行えるようになる。		
	4. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	5. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
	6. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト		
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義		
	試験：eラーニング上もしくは集合で実施		
研修内訳	講義（28時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	演習（4時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う	
	試験（任意）	試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください	

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	神経系の局所解剖	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	1
	神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント (1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	2
	神経学的主要症候、主要な神経疾患のフィジカルアセスメント (2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	3
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	4
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	5
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (3)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	6
	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) (4)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	7
	精神系の局所解剖	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	8
	精神医学的主要症候	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	9
	主要な精神疾患と病態生理 (1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	10
	主要な精神疾患と病態生理 (2)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	11
	主要な精神疾患の面接所見	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	12
	心理・精神機能検査	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	13
	精神系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部	講義	14
(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	15
	けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科	講義	16
	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	17
	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科	講義	18
	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) (1)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	演習	19
	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) (2)	小橋 孝介	松戸市立総合医療センター 小児科	演習	20
(B) 抗精神病薬の臨時的投与	統合失調症の原因・病態生理、症状・診断 (1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	21
	統合失調症の原因・病態生理、症状・診断 (2)	井川 真理子	平沢記念病院 病院長	講義	22
	抗精神病薬の種類と臨床薬理	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部	講義	23
	各種抗精神病薬の適応と使用方法、副作用	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部	講義	24
	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部	講義	25
	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	演習	26

(C) 抗不安薬の 臨時的投与	不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (1)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	講義	27
	不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	28
	不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (3)	佐野 信也	防衛医科大学校 医学教育部医学科教授	講義	29
	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク (有害事象とその対策等) (1)	井上 智喜	松山市民病院 薬剤部	講義	30
	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク (有害事象とその対策等) (2)	鷲見 幸彦	国立長寿医療研究センター病院長 神経内科	講義	31
	病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	谷向 知	愛媛大学 大学院医学系研究科教授	演習	32
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 科目修了試験				試験	-